

日・EUフレンドシップウィーク
リュック・フェラーリ生誕90年企画

《特別講座》**挑戦と継続** ~ヨーロッパの音楽教育が作り上げる力~
(参考上映:〈大いなるリハーサル〉シリーズ×4本)

LUC FERRARI

90TH ANNIVERSARY



リュック・フェラーリ生誕90年企画 《特別講座：挑戦と継続～ヨーロッパの音楽教育が作り上げる力～》

20世紀現代音楽に新しい想像力の地平を開いたフランスの作曲家、リュック・フェラーリ（1929-2005）。その生誕90周年となる本年は、ロンドンで8日間にわたるフェスティバルや映画祭が大盛況をおさめ、また遺稿集となる *Luc Ferrari Complete Works* がサーストン・ムーアの出版レーベルから発売されるなど、フェラーリとその広範囲にわたる仕事の重要性は吹米を中心に、より広い範囲で深く認識され始めている。

今回の連続講座では、日本でのリュック・フェラーリ研究の第一人者であり、またフランス・日本で音楽教育に関わってきた椎名 亮輔氏（同志社女子大学教授・プレスク・リヤン協会日本支局長）、ヒップホップやストリートカルチャーの分野を中心とした研究・教育に関わってきた荏開津 広氏（ライター/DJ）を招き、戦後ヨーロッパで始まった音楽の実験が単なる実験に終わることなく、音楽史の本道に、どのようにその重要な痕跡を残すまで成長したのかを、リュック・フェラーリを育てたヨーロッパの音楽教育と音楽史に通底する土壌から考察する。

また今回、フェラーリが盟友G・パトリスとともに制作した、ヨーロッパの作曲家・音楽教育者たちの芸術にかけるすさまじい熱量と、彼らの鮮烈な姿を記録した傑作ドキュメンタリー〈大いなるリハーサル〉（*Les Grandes Répétitions, 1965-68*）シリーズから4本を、仏INA-GRM（国立視聴覚研究所＝音楽探求グループ）の正式な許可と協力の下、日本語字幕付きで参考上映する。

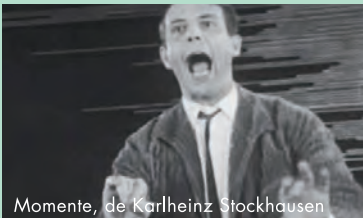
主催：同志社大学今出川校地学生支援課 共催：プレスク・リヤン協会日本支局 協力：ブリュンヒルド・フェラーリ、INA-GRM



5月7日（火）
エドガー・ヴァレーズ編
18:30開場/19:00開演
講師：椎名 亮輔氏（音楽学）
参考上映：
『ヴァレーズ礼賛』
1966年/60分/モノクロ

波乱の生涯を過ごした作曲家に捧げられた鎮魂歌！

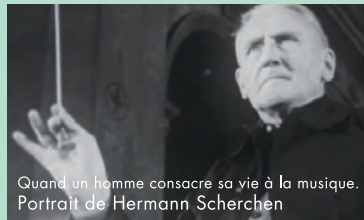
勃興期の電子音響の分野に多大なる影響を与えた作曲家エドガー・ヴァレーズ。本篇は「エドガー・ヴァレーズ篇」として構想されながら、ヴァレーズが撮影直前に急逝したために、作曲家、芸術家による追悼インタビューと「電離」（シモノヴィッチ指揮）「砂漠」（マデルナ指揮）の演奏を下に構成された。二人の指揮法の対比も見応え十分だが、バリのフェラーリがN.Y.のデュシャンと国際電話で会話するシーンはもはや伝説ともいえる映像である。また、1954年のリュック・フェラーリの初めての渡米の目的は、フランスを去り、アメリカに渡ったヴァレーズに面会することであった。



5月21日（火）
カールハインツ・シュトックハウゼン編
18:30開場/19:00開演
講師：荏開津 広氏（ライター/DJ）
参考上映：
『シュトックハウゼンの「モメンテ」』
1966年/45分/モノクロ

叫び！笑い！拍手！愛！眼力の中に、答えはある。

その風貌とクセの強すぎる性格からか、作品よりも彼自身について語られることの多い感があるドイツの作曲家、カールハインツ・シュトックハウゼン。自身の作品演奏について非常に厳格かつ、独特なセオリーを生涯貫き通し、また作品演奏の質の継続性にも配慮をおこたなかった。本篇はシュトックハウゼンのそのカリスマティックな魅力を存分に体感できるケルンでの1965年版「モメンテ」の指揮、解説とともに、彼が作曲家に至った道程を自身で語る、後世に残る貴重な資料となっている。また、今回上映の4本の中では唯一、シュトックハウゼンがフェラーリと同年代の作曲家である。



5月14日（火）
ヘルマン・シェルヘン編
16:00開場/16:30開演
講師：椎名 亮輔氏（音楽学）
参考上映：『一人の男が人生を音楽にささげるとき。ヘルマン・シェルヘンの肖像』
1966年/60分/モノクロ

厳しすぎるほどやさしく、さみしくなるほどまじめだったこの音楽家のことを、私たちは、まだほとんど知らない。

作曲家、指揮者、教育者、研究者としてその生涯をすべて音楽にかかわるものに捧げ、またクセナキスを初めとして、数々の現代音楽家の才能を発見しその仕事を支援・擁護する一方で、私生活においては結婚を繰り返し、子沢山でも知られたヘルマン・シェルヘンの最晩年の肖像を、彼自身によるリハーサル風景と、最後の夫人による回想をメインとして丁寧に綴った見応えある良作。フェラーリらは追加撮影を予定しており、それはシェルヘンの体調悪化により果たせなかったが、彼への思慕と敬意がラストシーンに深く刻まれている。



5月14日（火）
オリヴィエ・メシアン編
18:30開場/19:00開演
講師：椎名 亮輔氏（音楽学）
参考上映：『オリヴィエ・メシアンの「われ死者の復活を待ち望む」』
1965年/45分/モノクロ

大聖堂に轟く音響！名伯楽の教授法の秘密が今、明らかに！

自身が20世紀フランスを代表する現代作曲家であるだけでなく、フェラーリやブレーズなど、後世へ継がる才能を育てた優れた教育者でもあったオリヴィエ・メシアン。彼が政府から委嘱されて作曲した、戦没者を追悼する作品「われ死者の復活を待ち望む」のシャルトル大聖堂でのリハーサル風景を写した本作は、彼と作品を結ぶ貴重な資料としてはもちろん、彼の作品論と指導法をまかみま見ることのできる作品ともなっている。圧倒的な大聖堂の質量を感じさせる映像にひけをとらない、メシアンの穏やかながらもどっしりとした佇まいが見応え十分。

リュック・フェラーリ (Luc Ferrari)

1929年パリ5区に生まれる。コルター、オネゲル、メシアンに師事。P・シエフェールらとフランス国立放送内でGRMの創設に加わった後、1972年に自身のスタジオを設立。1982年には政府の援助を得て「La Muse en Circuit」（「回路の詩神」協会）を設立するが後に離れ、1996年、仕事場となる「アトリエ・ポスト・ポリッピ」を立ち上げる。2005年イタリアで旅行中に客死。作曲以外にも「大いなるリハーサル」を初めとした映像作品の制作監督、演劇、ミクストメディア作品を手がけるなど、その人柄同様、なにもものにもとられない自由さと、エレガントかつ諧謔味に富みながら、鋭いまなざしで社会を見つめることも忘れなかった彼の多彩な作品は、今なお多数のファンを獲得し続けている。本年は生誕90周年となり、世界各国で記念行事、出版が多数計画・開催されている。

プレスク・リヤン協会

2006年にリュック・フェラーリ夫人であるブリュンヒルド・フェラーリにより設立。フェラーリの仕事に関係する一切の事象を取り扱い、彼の遺した資料のアーカイブ化、体系化を行っている。またフェラーリの録音アーカイブを使用した国際コンクール「prix Presque Rien」（プレスク・リヤン賞）を隔年開催するなど、精力的に活動している。また2013年には日本支局が正式に発足し、日本語での情報を発信している。

参考上映 × 講師	ヴァレーズ × 椎名 亮輔	シェルヘン × 椎名 亮輔	メシアン × 椎名 亮輔	シュトックハウゼン × 荏開津 広
開演日時	5月7日（火）	5月14日（火）	5月14日（火）	5月21日（火）
16:30	—	●	—	—
19:00	●	—	●	●

受講料（1プログラムにつき）：1,000円均一
同志社大学学生・教職員（同志社内諸学校含む）無料

同志社大学 寒梅館クローバーホール

京都市上京区御所八幡町103

市営地下鉄烏丸線「今出川」駅下車 2番出口より北へ徒歩約2分
*駐車場・駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。

お問合せ：同志社大学今出川校地学生支援課

Tel: 075-251-3217 (ホール担当)

E-mail: ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

http://d-live.info/

